

## 地域コ - デイネ - タ - の仕事の現実

ある地方都市の地域支援センタ - ・コ - デイネ - タ - のメル友から、支援している青年が行方不明になり、人捜しのピラを私に添付送信あり。

不明になってから4日目のようで、ピラを作成する前は、心当たりを必死に探したことだろうなあ…。メル友の心情を考えると、つい厚かましく各大学等のメル友に、学内に掲示を依頼した。心痛のメル友に、これぐらいしか協力できないし、メル友へのせめてもの寄り添いかなと思ひ…。見つかっても本人の意思と家族の気持ちとの調整で、彼も更に大変だろうなあと想像している。福祉の現場の実情は、まだまだ我々で想像できない問題が潜んでいるよう。

早速、数校から掲示する旨の返信。でも、許可が下りない大学も予想通りあった。そうした大学のあることも仕方ない。これも障害者に対する社会の現実…。現実と向き合うしかないか…。

以下は、「掲示に協力してくれた学校があったよ」との私の励まし？メ - ルへの彼からの携帯からの返信。現実を知るにつけ、地域コ - デイネ - タ - は、大変ですよ。

「師匠の速急な対応と頼りあるネットワークには、相変わらず恐れ入ります m(\_ \_)m 今仙台駅にいます。本人が立ち寄りそうなカラオケボックス、ゲームセンター、飲食店にピラを置いています。昨日は夜中の12時まで探しましたが、今日はもうすぐ終わります。彼を心配する養護学校の同級生も手伝ってくれて早く終わりました。でも、夕食代が掛かり、悲しいものです(^\_^;) もう少し頑張って、今日は帰ります o(^\_^)o」。あえてユ - モアを交えた携帯メ - ルだけに、彼の心痛が伝わってくる（師匠とは私のことで、色んな会合で1, 2度しか会ったことがないのに、彼はどういう訳か、私のことを師匠呼びする）。

他にも、家庭をもつコ - デイネ - タ - の方と何人か会ったことがあるが、みんな土、日曜日なしに家族に呼び出されることが少なからずあるよう。「プロだから当然。仕方ない。」ということだけでは、こうした支援する人々は浮かぶ瀬はないし、その内体調を崩してつぶれるかも…。

サ - ビスを施策にするのは行政であっても、それを動かしているのは、彼のような一人一人の人間ですよ。彼らが十二分に活動できる人的、環境的条件の裏付けのある行政施策であって欲しい。

（青年は、不明後10日目にかかなり疲れた様子で自力で帰って来た由。まずはホッとしたメル友の顔が目浮かぶ。）